# 令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

**県南会場**

**科目　⑪保護者との連携・協力と相談支援**

◆　支援員は保護者との連携、協力が大切である。柔らかな関係になってこそ保護者支援につながっていく。保護者とコミュニケーションをする場合、コミュニケーションスキルの高さにより相手に思いやりを伝えることができたり、正確に伝えることができる。保護者からの相談を受けた場合は視線をきちんと合わせ、パーソナルスペースを保ち、とにかく聞く。経験や勘に頼った返答は時には重要であるが、それだけではいけない。保護者の思いを正しく受け止め、丁寧に関わっていくことが必要となる。「伝えたいこと」ではなく「伝わったこと」が事実となる。「伝える」ことはとても難しいと感じた。

◆　核家族が多くなったことや保護者の仕事など家庭環境が変わってきたことで、色々な考え方の保護者がいて、生活パターンが変わってきたことを理解し、受け入れていく自分になりたいと思いました。私はどちらかと言えば「こうでなければ」の考え方であると思います。エンパワメントに近づけるように、自分自身に柔軟性をもって、子どもたちや保護者に寄り添い、信頼されるようになりたいと思いました。自分を振り返りながら初心を忘れず、です。

◆　信頼関係の構築、それが保護者への対応の基本であることが分かった。傾聴、受容、共感的理解から思いやりが伝わり、保護者支援につながる。保護者は一人ひとり違う悩みを抱えている。しかし、子どもを見て子どものことをほめることで親は子育てに自信を持ち、柔らかな関係を築くことができる。本日演習したアイコンタクトやうなづき、笑顔等を活用し、相手の心持ちに共感しながら保護者への相談支援を心がけて行きたいと思う。

◆　保護者が迎えにきたときに、その日の様子を伝えますが、その時間だけでは伝えられないことが多いので、毎日の便りに子どもたちの様子や季節のこと、今はコロナに関することなどを書いて保護者に渡しています。夕方になると子どもも迎えにくるのを待っていて、保護者も仕事を終えて足早に来てくれます。子どもは「今日の夕ごはん何？」と迎えにきたとたんに聞いています。そんな会話をしながら帰るのがほほえましいです。

◆　会話を成立させるのはなかなか難しい。相手の言いたいことをしっかり聞き、ちゃんと聞いていることを伝えるために相づちをうつ、相手を最初から否定してはいけない、自分の経験が必ずしも保護者にとって正しいことではない、伝えたいことではなく伝わったことが真実。そこから人間関係を築いていく。学童クラブだけに限ったことではなく、日常生活を送っていくうえでも役立つことだと思いました。